

# 令和元年度 学校自己評価システムシート (埼玉県立草加西高等学校)

目指す学校像	人に優しく、自分に厳しく、社会に貢献する人間を育てる学校 ～自らの力で進路実現できる力を養う～
重点目標	1 個に応じた学力の向上と、主体的に学ぶ意欲を育成する。 2 自らの行動を律する力を身に付けるとともに、活力ある学校行事や部活動・生徒会活動を実現する。 3 生徒が望む進路を実現するために、個々の進路希望に応じたきめ細かな指導を行う。 4 地域との連携を強化し、信頼と期待に応える開かれた学校づくりを推進する。

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A ほぼ達成 (8割以上)
	B 概ね達成 (6割以上)
	C 変化の兆し (4割以上)
	D 不十分 (4割未満)

※ 学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする

出席者	学校関係者
	生徒 名
	事務局(教職員) 名

年度		学校自己評価		年度評価(月日現在)		学校関係者評価	
年月	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<b>【現状】</b> 生徒、保護者の進路意識が向上してきており、検定試験にチャレンジする生徒も増えてきている。 <b>【課題】</b> ・家庭学習の時間を増やし、基礎学力を向上させること。 ・主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業内容の程度や進度を検討すること。 ・生徒が意欲的に学習に取り組む姿勢と、自発的に学ぶ力を育成すること。	目的を持って学習に主体的、意欲的に取り組む生徒の育成	①生徒の家庭学習の時間を確保するため、教科間で連携を図り推進していく。(通年) ②主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業を展開し、校内での学び合いの機会を増やすとともに教員研修参加を推進する。(通年) ③教科と学年が連携し、資格試験の補習を充実し、資格取得を推進する。(通年)	①生徒の家庭学習時間を昨年度より増加させ、基礎学力を向上させる。 ②教員間での授業を公開し、学び合いの場を設ける。 ②外部の教育機関への研修等に参加し、その内容を校内研修会で共有する。 ③資格試験の受験者数及び合格者数を増加させる。 ③英検・漢検2級合格者を増やす。(昨年度比)			
2	<b>【現状】</b> ・日々のきめ細かな生徒指導を実施することにより、主体的・自主的に行動できる生徒は増えてきており、前向きに学習に臨み、安定した学校生活を送れている。 <b>【課題】</b> ・教員と生徒との信頼関係を強化し、一人一人が規律ある態度を実践し、将来へ向けた自主自立と必要な規範意識をより一層向上させること。 ・生徒が限定的な狭い範囲にとどまらずに自らの意思で決断し、行動できるようになること。 ・登下校時の安全を確保すること。	規範意識の向上に自ら努め、自らの意志で行動を律する力の育成	①担任・教科担当・部活動顧問が連携し、遅刻指導や身だしなみ指導等とおして、自らの意志で基本的な生活習慣が身に付くように指導する。(毎日) ②スクールカウンセラーによる教育相談を実施する。(毎月) ②校内教育相談体制を充実し、草加分校と連携した体制を実現する。(通年) ②二者面談の実施 ③学期毎に保護者と連携しての交通安全指導期間を設けて実施し、交通ルールやマナーを守る規範意識を高める。	①欠席数、遅刻数の減少を目指す。(昨年度比) ①精勤者、皆勤者の増加を目指す。(昨年度比) ②スクールカウンセラーと連携を図り、生徒が充実した学校生活を送れるように支援する。 ②草加分校と協力した教育相談対応やケース会議等を実施し、情報共有の機会を設定する。 ②生徒との二者面談を計画的に実施する。 ③交通ルールを守り、登下校時の交通事故を無くす。(昨年度比)			
		生徒会活動を活性化し、学校行事や部活動を通じて達成感を味わうことで自己肯定感を身につける。	①生徒会活動の核となる生徒会本部の活動を充実し、行事運営を今まで以上に生徒主体で実施する。(通年) ②部活動加入率を前年度同様(90%以上)維持し、各種大会やコンクールで上位入賞ができるよう適切かつ必要な指導者を配置する。(通年)	①生徒会の本部役員が各学校行事等の企画・運営を今まで以上に生徒中心に行う。 ②部活動加入率(90%以上)を維持する。 ②部活動実績。			
3	<b>【現状】</b> ・教科や各分掌との連携により、生徒の進路実現の達成率は98%を超えている。大学等への進学者も増加しつつある。 <b>【課題】</b> ・進路実現に向けてチャレンジする意欲を向上させること。 ・目標に向け最大限の準備ができる力を身につけさせること。 ・生徒の多様な進路希望への対応を今まで以上に組織的に行うこと。	希望する進路に向けて意識を高め、意欲的に取り組む生徒の育成	①進路指導部を中心に各学年が連携を図り、3年間を見通した進路指導を計画的に行う。(通年) ②進路指導部・教科や学年が連携して、補習・個別面談や小論文指導等の指導の他、教員向けの進路指導研修(進学指導全般)を実施する。 ③長期休業中や放課後を活用して、進学者や就職者対象の補習を計画的に実施する。(通年) ④保護者会や個別面談等を通して、進路に関する情報を的確に提供し、質の高い進路指導を継続実施する。	①進路指導主事による進路講話や進路指導研修等を実施する。 ②生徒が希望する進路の決定(100%)を目指す。 ②高大接続に対応した指導を実践する。 ②教員向けの進路研修会を実施する。 ③補習を計画的に実施する。 ③大学等が実施する進路説明会へ教員を派遣し、常に新しい情報を把握、生徒面談等に還元する。 ④保護者へ情報提供をする。			
4	<b>【現状】</b> ・積極的な情報発信と施設開放、地域ボランティア等の参加協力で開かれた学校づくりを推進している。 ・学校行事や授業公開への保護者の参加数は年々増加している。 ・草加ががやき特別支援学校草加分校との交流は良好である。 <b>【課題】</b> ・地域の小・中学校との交流を継続して実施するとともに定着化させること。 ・PTA活動への保護者理解と参加者を拡大すること。 ・分校との相互理解を推進するための新たな交流を検討、実施すること。	地域住民をはじめ、様々な人との交流を通じて思いやりや心のコミュニケーション能力を持った生徒の育成	①地域住民や小・中学校等との連携を図り、地域の高校としての認知度を高める。 ①ホームページを効果的に活用し、生徒の活動を積極的に掲載する。(通年) ②PTA・後援会理事会を中心として、保護者間の連絡や連携を強化し、活動の理解と各種行事等に参加しやすい環境を整える。 ③草加分校と連携し、日々の連絡を共有する体制を構築する。また、各種行事の共同開催や放課後の部活動を合同で行う。(通年)	①学校説明会への参加者を700名程度にする。(昨年度705名) ①ホームページを積極的に更新する。(昨年度比) ②地域ボランティア活動への参加部活と生徒数を増加させる。 ②保護者の授業公開やPTA活動、各種行事等への参加数を増加させ、学校への関心を高める。 ③合同での行事を実施する。 ③日常での相互交流を図る。			